

製造業の集積と分散
～日本の高度経済成長期を事例として～
Agglomeration and Dispersion of Industries:
A Case Study of Japan in the High-Growth Period

外国語学部イスパニア語学科 4 年
A9954004 青柳恵太郎

経済発展論において、一国内での経済活動の空間的分布という問題はさしたる注目を浴びてこなかった。経済は空間的拡がりをもたない単なる点として扱われ、企業の立地問題は明示的な分析対象にはならなかったのである。しかし近年、産業集積が国の経済発展に対して重要な役割を果たしているとの議論が発展論の中で広まっている。それに加え、産業集積はこれまで立地論を扱ってきた地域経済学や都市経済学、あるいは経済地理学といった分野を越えて、産業組織論や国際経済学などの分野においても注目を集めるに到っている。

しかしながらこのような経済の空間的構造に関する議論は古く、すでに A. Marshall は著書 *Principles of Economics*(1920)の中で地域的外部経済性について言及している。また、立地論の分野ではウェーバーやホテリングなどの先駆的な研究がある。

P.Krugman はこうした空間構造に関する業績が主流の経済学では無視されてきたことを指摘し、規模の経済と輸送費の複合作用によって発生する集積のメカニズムのモデル化を行い、新しい空間経済学と呼ばれる新たな地平を構築しつつある。しかし理論化が始まって間もないこともあり、この分野では統計を用いた実証研究が十分に行われているとは言えない。

そこで本論では上記のような問題意識の下、日本国内における高度経済成長期の製造業の立地動向に関する検討を行う。高度経済成長期の日本では製造業が経済成長の牽引役を果たしていた。また、同時期は下請制度などの中小企業のネットワークが形成された頃でもある。こうした経済状況を見ると Krugman らの議論で取り上げられる集積の条件が整っているように思われる。しかし他方、高度経済成長は多くの深刻な公害問題や地価の上昇などをもたらしたことが報告されている。こうした現象は外部不経済として働き、企業に集積から離れさせようとする力を加える。では、以上のような特徴をもつ高度経済成長期には果たしてどのような産業で集積あるいは分散が進行したのであろうか。そして、それらの立地動向は地理的にどのような特徴が見られたのだろうか。本論では以上の二点について統計分析を行うことでその動向を把握するとともに、空間経済学の理論を用いてその変化を説明することを目的とする。

具体的方法として、前者の問題に答えるために集積指標として Krugman が用いた地域集中化ジニ係数を用いる。各製造業業種別の地域集中化ジニ係数を求め、その変化の方向を

観察する。また後者に答えるために都道府県別に各製造業業種の立地係数を求め、産業の集積・分散はどのような地理的变化を伴いながら進行したのかを観察する。

筆者が行った統計分析では高度経済成長期における製造業の立地動向について以下の事実が明らかとなった。

分析対象期における製造業全体の立地の傾向として分散化という現象が見られた。既存の集積地を中心として、その周辺部へと徐々に立地が拡大を見せている。とりわけ、高度経済成長期のリーディング産業であった機械産業、鉄鋼業、金属製品製造業などにおいてその動きが典型的に見られた。同時期はまた、公害等の外部不経済の問題が表面化してきた時期でもあり、そのことから、こうした産業立地の変化に対し、外部不経済の大きさと輸送コストの関係からなるメカニズムを用いても説明できることの可能性が示された。だが本論では分散の要因に関する詳細な計量分析を欠いており、この点は今後の研究の課題となった。

主要参考文献

- (1) 小浜裕久『戦後日本の産業発展』日本評論社、2001年。
- (2) 園部哲史「生産の集積と分散」『通産研究レビュー』第6号、pp.152-171、1995年。
- (3) 藤田昌久、久武真人「日本と東アジアにおける地域経済システムの変容 新しい空間経済学の視点からの分析」『通産研究レビュー』第13号、pp.40-101、1997年。
- (4) Fujita, Masahisa, Paul, Krugman and Anthony, J., Venables, *The Spatial Economy: Cities, regions and international trade*, Cambridge, MIT Press, 1998.
(邦訳、出博之(訳)『空間経済学：都市・地域・国際貿易の新しい分析』東洋経済新報社、2000年。)
- (5) Kim, Sukkoo, “Expansion of Markets and the Geographic Distribution of Economic Activities: The Trends in U.S. Regional Manufacturing Structure, 1860-1987”, *Quarterly Journal of Economics*, November pp.881-908, 1995.
- (6) Krugman, Paul, *Geography and trade*, Cambridge, MIT Press, 1991. (邦訳、北村行伸・高橋亘・妹尾美起(訳)『脱「国境」の経済学-産業立地と貿易の新理論-』東洋経済新報社、1994年。)